

中波放送は、昼間は地元の放送しか聴こえませんが、夕方以降は遠くの放送も聴こえます。日没以降にラジオの周波数をゆっくりと変えてみてください。北は北海道、南は九州・沖縄まで、いろいろな放送が聴こえます。

これは中波帯の電波の性質が昼間と夜間で異なるために起こる現象です。放送局から発射された電波は、昼間は数十キロ先までしか届きませんが、夜間には数百から数千キロ以上に到達するようになります。

例えば大阪では、昼間は大阪の放送と近隣の京都や神戸などの放送しか聴こえませんが、夜には東京のTBSラジオ(954kHz)、仙台のTBC東北放送(1260kHz)をはじめ、全国の放送を聴くことができます。

遠くまで電波が到達するということは、同一周波数で放送している複数の放送が同時に遠方にまで到達することになるので、当然混信を伴うことになります。例えば、900kHzに周波数を合わせてみましょう。現在、900kHzでは鳥取県米子市のBSS山陰放送、高知県高知市のRKC高知放送、北海道函館市のHBCラジオ函館中継局がそれぞれ放送しています。これらの放送のサービス・エリア外にお住まいの方は、上記3局と韓国、中国の放送が混信しながら聴こえることでしょう。

どこの放送だか区別が付きませんが、しばらくじっと耳を澄ましてみましょう。高知RKCラジオが聴こえたかと思ったら、次は函館のHBCラジオ、今度は韓国語、そして中国語が聴こえたりと、まるで回り舞台のように、次から次へ放送が聴こえては消え、また違った放送が浮かび上がってはまた消えて…という感じでしょう。中波放送で遠方の放送を聴くには、じっと待ち構えて目的の放送が浮かび上がるのを待ち受ける忍耐力が必要です。このように遠くの中波放送を受信することを「中波DX」といいます。

ある東京在住の阪神タイガースのファンが、こんな話しをしてくれました。

「僕は帰宅途中にカー・ラジオで、大阪のMBS毎日放送の“タイガースナイター”を聴いている。運転中なのでインターネットを見ることができない上、携帯サイトで確認するわけにもいかない。それに在京のラジオ放送では、なかなかタイガースの試合を聴けない。遠くの電波だから聴こえが悪くて…、聴こえたり聴こえなくなったり、トンネルの中では雑音だけになってしまうけど…、ラジオなら聴いても違反にならないからね！ 高速道路の高台などロケーションの良いところで、電波の入りが良くなったとき、金本が打ったんだよ！ ガーンと大きいのをね！」

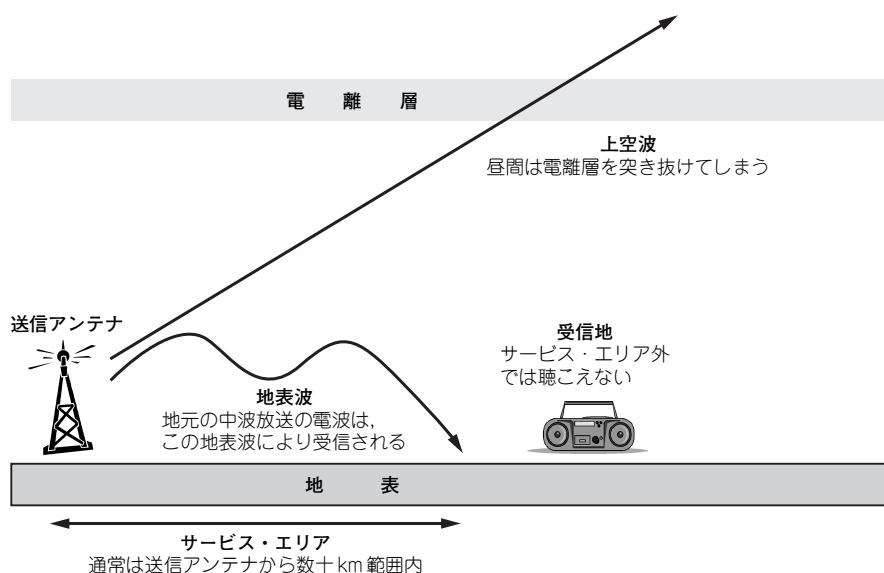
その方は、BCLを趣味としている人ではありませんが、いみじくも中波DXの醍醐味を語ってくれたような気がしました。

さあ、皆さんも中波DXにチャレンジしてみてください。東京にお住まいのカープのファンでも、1350kHzで広島のリッカー中国放送で「RCCカープナイター」を韓国の放送と混信しながら聴くことができます。大阪のライオンズのファンは、1134kHzで東京の文化放送の「文化放送ライオンズナイター」を聴くことができます。一般に中波DXは、日照時間が短い秋、冬に適しています。

● 中波放送の電波の性質

ここで中波の電波の飛び方についてお話ししましょう。初級編で紹介した東京の文化放送は、同じ周波数の韓国の放送が混信します。東京都内でも、カー・ラジオで聴いていると、場所によっては韓国語の放送が混信して聴こえることがあります。

図2-1を参照してください。放送局の送信アンテナから送信される電波は、上空に向かって飛んで行く上空波と、地表を縫うようにして飛んでゆく地表波とがあります。地表波は、通常、送信アンテナから数十キロまでしか到達しません。それ以上遠くになると、電波の強度はどんどん弱くなります。サービス・エリアとは、この地表波が放送の聴取に何ら影響なく聴こえる範囲を指します。



〔図2-1〕 昼間における中波の電波の性質